昭和62年度　技術交流会報告書

照屋　忠敬

1. 課　題

クビレヅタ養殖について

2. 目　的

八重山漁協ぶどう養殖組合では昭和60年からクビレヅタの養殖にとりくんできたが、現在まだ出荷する段階にはいたっていない。

そこで、先進地である平良市漁協久松漁業研究会と交流を行い、互いの技術の向上を図ることを目的とし、技術交流会を実施した。

3. 交流会

平　良　市

4. 日　程

昭和62年9月29日

10：00	～ 12：00	現場視察
13：00	～ 15：00	平良市栽培漁業センター視察
18：00	～ 20：00	交 流 会

5. 参加者

那良伊　孝	八重山漁協	松川　　勝	平良市漁協
下地　　昇	〃	与那覇昭雄	〃
池井　　進	〃	儀保　正司	〃
山崎　国雄	〃	友利　伸也	宮古支庁農水課
美佐志義一	〃	仲間　　勲	〃
那根　　昂	〃	奥原　哲夫	〃
		照屋　忠敬	八重山支庁農水課

6. 交流地の概要

クビレヅタの養殖については昭和51年度から水試によって試験研究が始まり、昭和55年度には水試と宮古支庁により養殖試験が行われている。昭和56年度は宮古支庁により新技術実証事業が行われ、昭和59年度に研究会を結成し、昭和60年度で水産業構造改善事業で施設の整備強化を行った。昭和61年度より出荷する。

7. 行程の概要

10：00　現場視察。養殖施設上で平良市漁協久松漁業研究会の松川 勝 会長より種付け法、種の

越冬・保存、収穫の状況及び方法、販売等について説明を受けた。

13：00～15：00　平良市栽培漁業センターを視察。

18：00より宮古支庁農林水産課会議室で交流会をもった。

交流会では、西表地区でのこれまでの状況を八重山漁協海ぶどう養殖組合の那良伊孝会長より説明を行った。その後、意見交換を行い、先進地である宮古久松地区の養殖技術を学び、生産者相互の交流を行った。

8. 所　感

西表地区でのクビレヅタの養殖は始まったばかりであり、また同地区からの交流会は初めてのことであったので、今交流会は非常に有意義であった。今後とも両会の技術交流が続くことを望む次第である。

さて、両養殖場のある湾の特徴をくらべてみると、船浮湾は湾口部が開き、湾奥部が狭くなっているので波浪の影響が大きい。また、栄養塩類も低い（照屋・1988）。与那覇湾は湾口部が狭く、波浪の影響が少ない穏やかな湾である。また、栄養塩類も高い（照屋・1983）。

当真（1984）はクビレヅタの繁茂は波浪の穏やかな場所であるといっている。与那覇湾は穏やかでクビレヅタの繁茂にとって良い環境条件がそろっていると思われる。船浮湾と与那覇湾では物理的・化学的な環境条件に差がみられる。

しかし、昭和60年、昭和61年の試験においては僅かであるが成長がみられたので、生物的な環境条件では十分可能性はあると思う。今後、波浪、着底物（網等）、種の結着法等、の問題を一つ一つ解決していかなければいけない。

参　考

仲間　勲（1978）　本　　誌（昭和55年度）

仲間　勲（1989）　本　　誌（昭和56年度）

当真　武（1984）　水産の研究　Vol3. №3

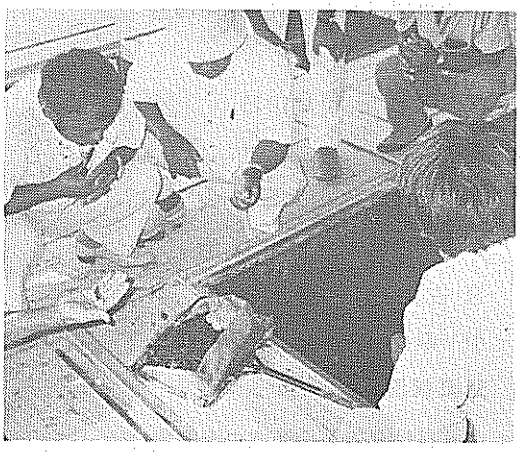
照屋忠敬（1983）　沖水試事報（昭和56年度）

照屋忠敬（1988）　本　　誌（昭和62年度）

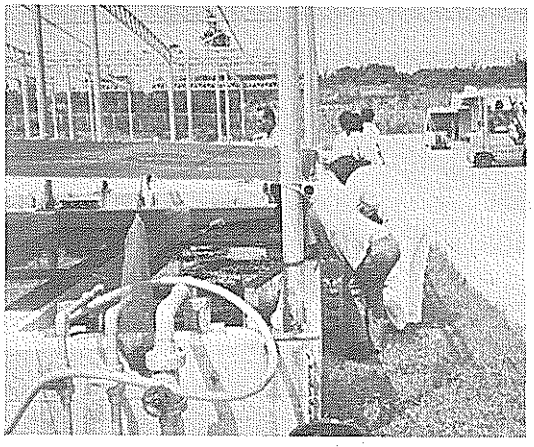
八重山漁協のメンバー

クビレヅタ養殖施設

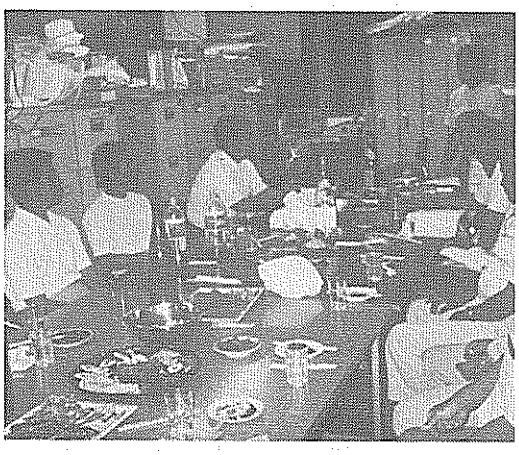
八重山、那良伊会長（左）と平良、松川会長（右）



松川会長より説明を受ける八重山漁協のメンバー



平良市栽培漁業センター視察



交　流　会